

6. 主な所蔵資料

1. 図書資料

(1) 美術関係図書

日本・東洋・欧米の美術に関するものを中心に、各地方公共団体刊行の文化財関係調査報告書、展覧会の図録・目録類、売立目録など日文欧文あわせて約 73,000 冊の図書、美術関係雑誌は和文 2,067 種、韓文 38 種、中文 108 種、欧文 400 種で約 83,000 冊を所蔵している。

江戸期の写本版本をはじめ、明治大正期刊行の大型美術図録や美術雑誌、また明治から昭和初期に開催された各種博覧会展覧会資料など、多くの貴重書を所蔵している。

また今年度は笹木繁男氏主宰現代美術資料センターより近現代美術に関する膨大な資料の寄贈を受け、整理を進めている。

(2) 芸能関係図書

雅楽・寺事・能・文楽・歌舞伎・邦楽・邦舞・民俗芸能・寄席芸、その他わが国の伝統芸能の研究に必要な図書、約 12 万冊を所蔵している。そのなかには、能楽画報・演芸画報・歌舞伎新報・歌舞伎(第1次)・テアトロ(第1次)・新劇・上方・民俗芸術・日本民俗・芸能復興・郷土研究・旅と伝説など現在では入手しにくい雑誌、国立劇場ほかで行われる芸能公演の上演資料や声明本・謡本・囃子手付本・丸本などの台本・譜本等、多くの貴重書を含んでいる。

(3) 保存科学・修復技術関係図書

伝統的生産および工芸技術書、技術史またはそれらの科学的究明を試みたもの、修理工事報告書および化学・物理学・生物学部門の保存科学の関連和洋書、あわせて約 4,000 冊を所蔵している。

(4) 外国文化財関係図書(国際文化財保存修復協力センター・国際資料室管理)

国際資料室では、外国の文化財や文化保存、文化財保存国際協力や文化財保護制度に関する国内外の図書資料を 1,600 点余り所蔵している。今年度は旧関野克氏所蔵の資料の受入を実施した。また、文化財保護関連機関のパンフレットなど、図書以外の文献資料も分類・所蔵している。さらに、国内外の文化財保護関連法令資料の収集を実施しており、現在は 130 の国や地域の法令資料がある。

平成 13 年度における収集数(韓文・中文図書は、和漢書として計上)

区分(2001年度)	美術関係	芸能関係	保存修復関係	外国文化財関係	計
和漢書	2,074 冊	323 冊	18 冊	428 冊	2843 冊
洋書	178 冊	2 冊	11 冊	152 冊	343 冊
合計	2,252 冊	325 冊	29 冊	580 冊	3186 冊

2. その他

(1) 美術関係資料

写真資料は、情報調整室が管理し、絵画・彫刻・工芸・建築等の台紙貼写真、売立目録カードなど総数約 26 万点を所蔵している。写真原板は、モノクロ 4 × 5 フィルム約 48,500 点、カラー 4 × 5 フィルム約 8,300 点、四切ガラス乾板約 7,800 点をはじめとして、各種サイズのモノクロフィルム、X線フィルム、赤外線フィルムなどを多数所蔵している。

平成 13 年度からは、画像形成のルーチンに大幅な見直しをした結果、約 95 パーセントがデジタル撮影となった。フルカラーの通常撮影が 4,674 カット、赤外線画像・可視域励起による蛍光画像等が 1,400 カット、都合 6,074 カットの画像を形成した。

その他、拓本類、作家伝記資料、落款印章資料、近現代作家・団体・画廊・作品資料、資料スクラップ等と図版カード、各種索引類などを所蔵し、一部、近代関係の資料は美術部で管理している。

(2) 芸能関係資料

芸能部では、雅楽・能・歌舞伎・邦楽・寺院行事・民俗芸能その他の伝統芸能の技法を、録音・録画・写真撮影等の形で記録することを重要な業務としてきた。現地での実況や所内舞台での演奏を記録したオープンリールテープは約 2,300 点、ビデオテープは約 1,300 点、スチール写真は関連する文書の記録写真等も含めると約 19 万点に及ぶ。本年度は新たにビデオテープ 95 点、写真約 430 点を登録した。

また、市販された伝統芸能関係の音盤の収集も進めている。ことに、1960（昭和 35）年度文部省機関研究費によって購入した安原コレクションは、明治・大正・昭和 3 代にわたって発売された各種邦楽の SP レコードを網羅した約 6,000 枚の一大コレクションで、近代における邦楽の実態と変遷を知る上で貴重な資料である。レコードの収集枚数は現在約 7,300 枚に及んでいる。

なお SP レコードコレクションの詳細は『音盤目録 I～V』（東京国立文化財研究所刊 1966～1996）で公表している。

(3) 保存科学・修復技術関係資料

保存科学部・修復技術部では、考古遺物や美術工芸品など、諸部門の文化財を撮影した X 線フィルムを多数所蔵する。X 線透視撮影は昭和 20 年代から力を注いで行っており、近年それらのデータをデジタル化し、整理する作業を進めている。